



浜尻屋貝塚出土骨角器類  
離頭鉾、中柄



骨鏃



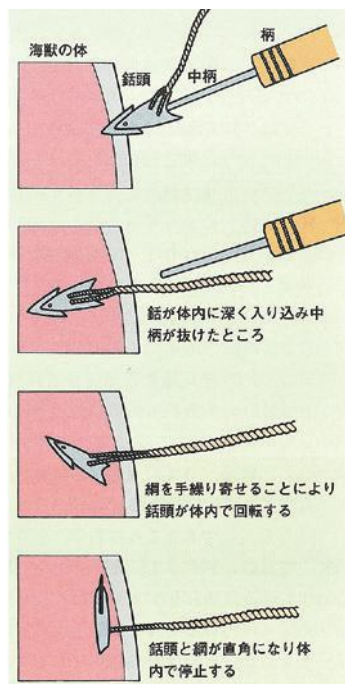
擬餌針の軸、サイコロなど

浜尻屋貝塚は昭和50年頃から確認されましたが、詳しい年代は明らかではありませんでした。そのため平成7年（1995年）に村史編纂の一環として村教育委員会で試掘調査を行いました。調査では西暦1300年代から1400年代の陶磁器が出土し、中世のワビ貝塚であることが判明しました。

平成7年の調査により、大変貴重な遺跡と評価されたことから、村教育委員会は平成12年（2000年）から3年間に亘り、国史跡指定を目的とする学術調査を行いました。

調査では遺跡範囲を確認し、貝塚の内容や建物など当時の生活の様子を明らかにすることができました。

様々な成果の中でも北海道の中世アイヌ文化との関連をうかがわ



(図1) 離頭鉾

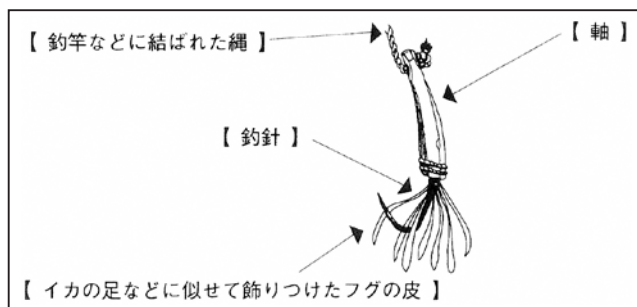
せる骨角器類の出土が大きな成果といえます。

この骨角器類は本州で見つけることは少ないため大変貴重な資料として、全国から注目されました。

今回、県重宝の指定を受けた骨角器は離頭鉾（5点）、骨鏃（20点）、鉾（1点）、擬餌針の軸（5点）、針入（3点）、サイコロ（3点）、その他（25点）です。

離頭鉾は鉾頭と中柄を組み合わせ、図1のように使用します。トドなど大型の海獣類を狩猟していました。

骨鏃や鉾は、魚類などを突き刺すための道具です。擬餌針の軸は図2のように使用します。軸に釣針を差し込み、エサに似せた飾りを付けました。その他として、針を収納する入れ物やサイコロ、装飾品なども見つかりました。



(図2) 擬餌針

### 発掘調査にご協力いただいた作業員の方々



平成14年



平成13年



平成12年



平成7年

平成7年から28年間、これまで浜尻屋貝塚に関わっていただいた全ての方のおかげで、国史跡と県重宝に指定されることができました。村の宝物をありがとうございました。